

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 28日は、高気圧が日本海に進み、前線が日本の南から沖縄付近にのびる。
- 29日は、高気圧は日本の東へ進み、前線を伴った低気圧が東シナ海を進む。この低気圧は不明瞭となりながら30日に本州付近を進み、別の低気圧が北海道付近に進む。
- 5月1日から2日にかけて、高気圧が日本海を進み、前線は本州付近から日本の南へ南下していく。

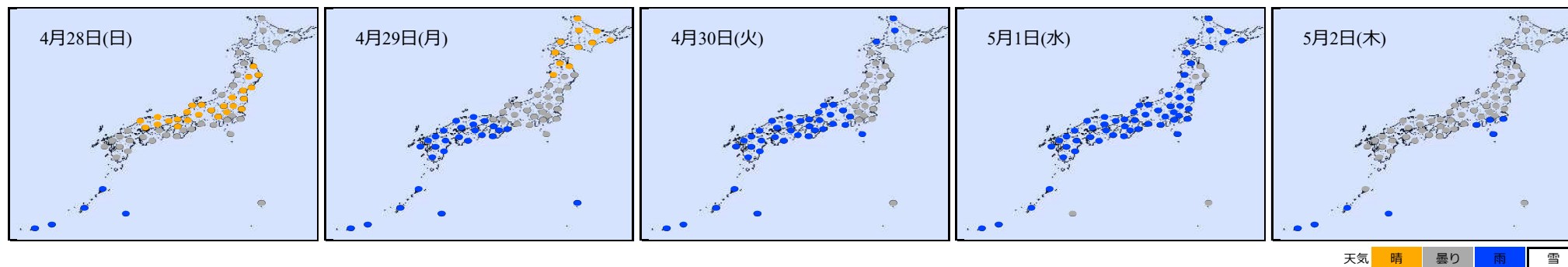
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 期間の前半は、気温は平年より高い日が多く、かなり高くなる所もある。積雪の多い所ではなだれ等に注意。
- 令和6年能登半島地震で揺れの大きかった地方は地盤の緩んでいる所があり、少しの雨でも土砂災害の危険度が高まるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

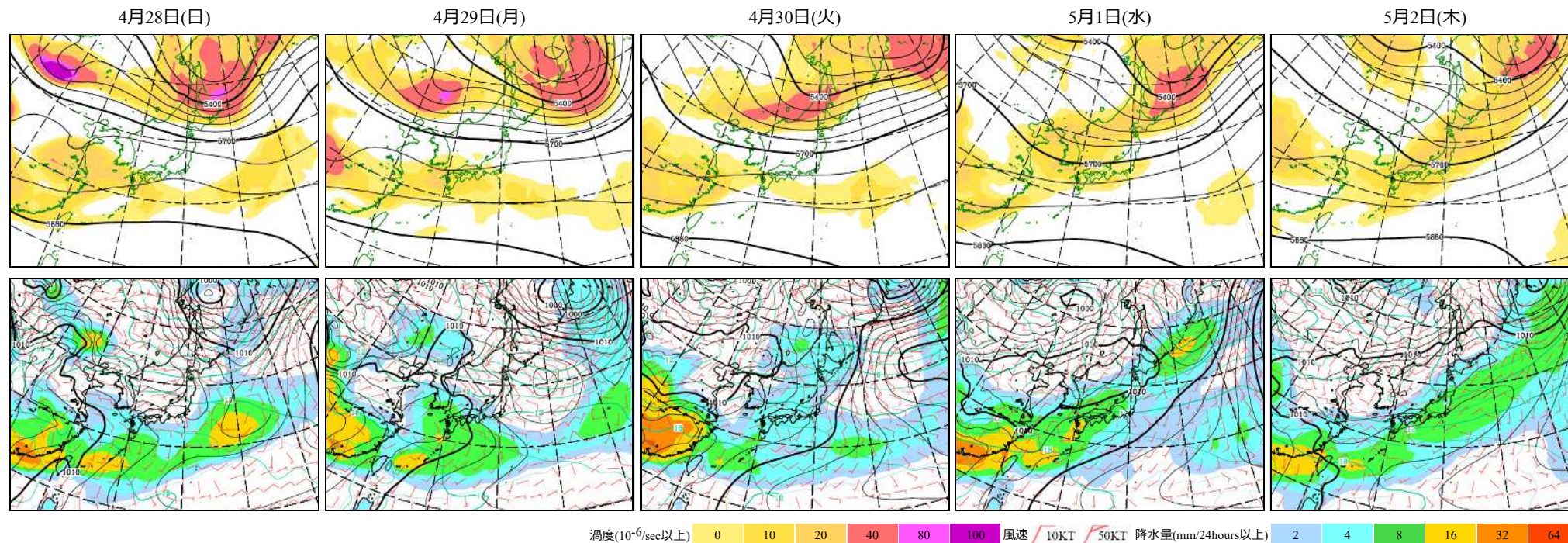
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

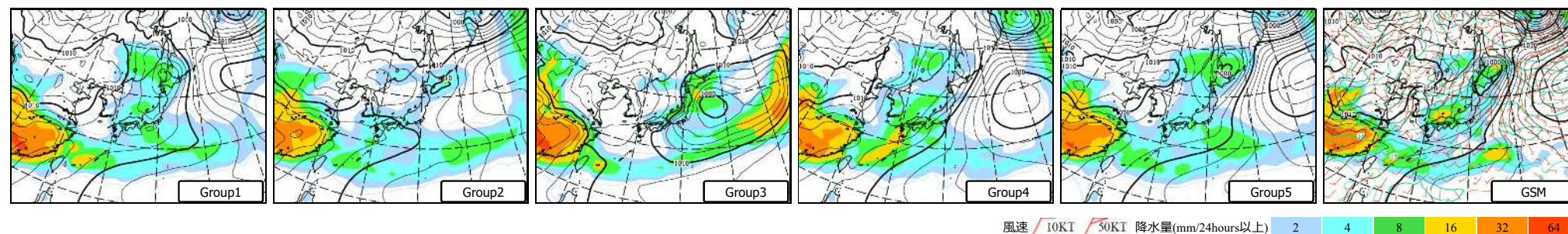


- 北日本は、曇りまたは晴れとなるが、30日から5月1日にかけて雨の降る所がある。
- 東日本と西日本は、28日は晴れる所があるが、雲が広がりやすく雨の降る日がある。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆4月30日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料 (ENS) は、29日は日本海北部にリッジが進む予想となった。30日から5月1日にかけて北日本を通過するトラフは浅くなり、進みは遅くなった。1日から2日かけて日本付近にトラフが進む予想になった。地上の気圧配置の予想にも初期値変わりが見られる。
- ENSとGSMの初期値変わりが大きいですが、昨日資料と比べてモデル間の差は小さくなった。5月1日以降の予想は、モデル間の差が大きくなっている。
- 30日に北海道付近に予想される低気圧についてはモデル間に差がある。ENSには、各モデルに近い予想をするメンバーの他に北海道付近で低気圧が発達する予想をするメンバーも含まれている。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考えるが、5月2日は前線が日本付近から離れていくと考え、FEFE19で東北から九州にかけて広く予想されている降水域は縮小する。